

第7回融合委員会の目的：「京都市基本計画答申案の検討」

成果の概要

最初に、基本計画の名称について審議された結果、「はばたけ未来へ！京(みやこ)プラン」に決定されました。

続いて、第2次案に対するパブリック・コメント等の内容を踏まえて作成された基本計画答申案について審議され、全体として概ね了承されました。



今後は、11月1日に基本計画審議会総会、4日に答申が行われる予定です。
また、11月市会における審議を経て基本計画が策定された後、これを市民の皆様
に周知することを目的として、平成23年1月頃に未来の担い手・若者会議U35が
主催するイベントが開催される予定です。

実施概要

- 日時 平成22年10月26日(火)午後2時00分から午後3時30分まで
- 場所 京都ホテルオークラ 4階 暁雲
- 出席者 尾池会長、浅岡副会長、宗田融合委員会委員長
(9名) 乾委員(うるおい部会部会長)、秋月委員(活性化部会副部会長)、
森委員(すこやか部会部会長)、塚口委員(まちづくり部会部会長)、
上村委員(まちづくり部会副部会長)、松山委員(未来の担い手・若者会議U35議長)
(事務局) 由木副市長、西村総合企画局長、柴山政策企画室長、大田京都創生推進部長

当日のプロセス

開会
本日の議事の説明

議事1
基本計画の名称の検討

議事2
パブリック・コメントの
総括
区基本計画策定委員会と
の意見交換(10月1日開
催)の報告

議事3
基本計画答申案の検討

- <主な論点>
- ・ 計画の背景における「人口減少」の考え方について
 - ・ 都市経営の理念
 - ・ 行政経営の大綱
など

閉会
・ 尾池会長の総括
・ 由木副市長の謝辞

<計画の背景～人口減少のとりえ方について～>



人口減少は居住地問題など劇的な問題を
引き起こしかねない。それに耐える政策
立案を覚悟することが非常に重要。



人口減少は避けられなくとも、なだら
かに減らすことを考えることが重要。

人口減少を食い止める方策に取り組みなが
ら、少子高齢化を見通したパラダイムシ
フトを起こすという論理構成でよい。



日本全体の人口が減少するとしても、
それを所与の条件とするのは未来がな
いのではないか。

パラダイムシフトを予見しながら、人口減
少を食い止めるための政策を進めるとい
う考え方ということで修正案どおりとする。

<都市経営の理念>

未来像は「わたしたち京都市民は」ではじまってい
るように、「共汗型計画」ということから、「自主的
に」よりも「参加と協働で」としてはどうか。
(都市経営の理念の第2パラグラフ)



<行政経営の大綱>



「歴史都市である京都市の都市特性を踏ま
えて」という記述は残してはどうか。

<その他、計画全般について>

「林相」など、まだ硬すぎる言葉が残っている
ので、分かりやすい言葉になるよう注意して
もらいたい。



<総括コメント>



15名の委員に70名のイン
ターフェース、またパブコメで市
民のインターフェースを務めて
いただいて議論が深まった。

熱心に、スリリングな議論を展開
していただき、勉強になる審議会
であった。心から御礼申し上げます。

